

## 第6章

### 実施上の留意点

## 第6章 実施上の留意点

プロジェクトを実施するにあたって、専門家の助言を踏まえた留意点は以下のとおりです。プロジェクトを行う際の参考にしてください。

### 1 プロジェクト全体を通じた支援者の視点、関わり方の留意点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者に必ず「強み」があると認識して関わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者が、「受講者には「強み」がある」と認識して関わらないと、受講者本人も「自分には「強み」がある」という思いを抱きにくくなります。どの受講者も、自分には「強み」があるという意識が育成されてこなかっただけで、<u>もともと「強み」はあると認識して支援を進める</u>ことが大切です。</li> <li>・支援者は、受講者に「強み」はあるという認識のもと、「強み」に着目して受講者の行動観察等を行います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の選んだ「強み」を意識して行動観察する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の行動観察やアセスメントを行う際は、<u>受講者が選んだ「強み」と関連づけて観察し、記録に残します。</u> 例：日頃の支援で使っている支援記録票に、「受講者が選んだ「強み」」を常時記載しておく。</li> <li>・受講者が「強み」を発揮していると思われる場面が観察できたときや、「強み」を発揮しすぎて疲れていると思われる場面が見られた際は、それをフィードバックして、受講者が、自らの「強み」を発揮している状況やその効果を振り返る手助けをします。</li> </ul>

### 2 講習・ホームワーク実施上の留意点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習参加者が少なく集団が形成できない場合</li> <li>・受講者の集団参加が難しい場合</li> <li>・1対1の相談場面で活用する場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習・ホームワークは、<u>支援者と受講者1対1で行うことができます。</u></li> <li>・「リフレーミング・ゲーム」や「強み」をいろいろな視点からとらえる」の「ワーク1、2」は、支援者が進行役を担いつつプレーヤーなどの参加者役を担うことで、1対1を進めることができます。</li> <li>・いろいろな意見を聞いて視野を広げるといった効果をねらいたい場合は、進行役の支援者以外に、別の支援者が受講者役として補助的に入ることで対応します。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトの必要な部分のみを実施する場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトは、オリエンテーションから振り返りまで、流れに沿ってすべて実施することが必須ではありません。<u>受講者のニーズや状況に応じて、その要素の一部のみを取り出して実施することが可能です。</u></li> <li>・その場合、「強み」の定義、構成要素の説明と、振り返りは必ず行います。</li> </ul>

	<p>例1：「強み発見チェックリスト」と強みカードのみ使用          ⇒ 1. 講習①から「強み」の定義、構成要素の説明などを抜粋し、「強み」についての理解を促す。          2. 「強み」発見チェックリストを付けてもらい、伸ばしていきたい「強み」を5つ選んでもらう。          3. 該当の強みカードを渡す。          4. 「強み」の構成要素をチェックしてもらう。          5. 強みカードの内容を意識して活動に取り組むように促す。          6. 強みカードの内容を意識して取り組んだ結果や、「強み」の構成要素の変化などの振返りを行う。</p> <p>例2：「強み発見チェックリスト」とホームワークを中心に実施          ⇒ 1. 講習①から「強み」の定義、構成要素の説明などを抜粋し、「強み」についての理解を促す。          2. 「強み」発見チェックリストを付けてもらい、伸ばしていきたい「強み」を5つ選んでもらう。          3. 「強み」の構成要素をチェックしてもらう。          4. 「強みの意図的活用：行動実験」記録用紙を渡し、1週間など期間を決めて、選んだ「強み」の意図的な活用に取り組んでもらう。          5. 「強みの意図的活用：行動実験」の結果や、「強み」の構成要素の変化などの振返りを行う。</p>
<p>・強み発見チェックリストの表現が自らの状況に合致しにくい受講者の場合</p>	<p>・<u>受講者が自らに当てはまると思う言葉で「強み」を表現してもらってもかまいません。</u>          例：「熱い気持ちを持っているが「情熱」には当てはまらない」という場合、「<u>熱い気持ち</u>」を自らの「強み」にしましょう」と声をかける。          ・「強みカードに記載された「強み」の内容の一部は当てはまるが全部は当てはまらない」と言う受講者の場合は、「<u>すべて当てはまらなくてよいので、自らが伸ばしていきたいと思う点だけに着目しましょう</u>」と伝えます。</p>
<p>・強み発見チェックリストで“4”や“5”と答えた回答がない場合</p>	<p>・<u>“3”と答えたもののうち受講者自らが伸ばしていきたい「強み」を抽出</u>します。</p>
<p>・受講者単独でホームワークに取り組むことが難しい場合</p>	<p>・<u>自宅ではなく、支援の中で実施</u>します。          ・<u>独力でホームワークの記録シートを書けない場合は、個別相談など支援者との相談の中で一緒に振り返る</u>ことで対応します。</p>

<p>・「強み」の構成要素の得点化がうまくできない場合</p>	<p>・「強み」の構成要素チェックで、「強み」の構成要素（パフォーマンス、活力感、自分らしさ（意味付け））について「総合的にどの程度当てはまるか」が判断できない場合は、<u>項目1つ1つについて1～6点を付け、平均点を出します。</u></p> <p>例：パフォーマンスのチェック</p> <table border="1" data-bbox="577 423 1195 663"> <tr> <td>物事がたいていうまくいく</td> <td>4点</td> </tr> <tr> <td>いい成果を収めることができる</td> <td>5点</td> </tr> <tr> <td>最大限のちからを発揮できると思う</td> <td>6点</td> </tr> <tr> <td>成功している</td> <td>2点</td> </tr> <tr> <td>うまくやれていると思う</td> <td>3点</td> </tr> </table> <p>⇒ (4 + 5 + 6 + 2 + 3) ÷ 5 = 4点とする</p> <p>※「強み」の講習資料②-8（43ページ）、「強み」の3つの構成要素をチェックしよう」（49ページ）参照。</p> <p>・この場合は、受講後の変化を確認するため、<u>プロジェクトの最後の振返りで構成要素を得点化するときにも再度同様の方法で点数を付けます。</u></p>	物事がたいていうまくいく	4点	いい成果を収めることができる	5点	最大限のちからを発揮できると思う	6点	成功している	2点	うまくやれていると思う	3点
物事がたいていうまくいく	4点										
いい成果を収めることができる	5点										
最大限のちからを発揮できると思う	6点										
成功している	2点										
うまくやれていると思う	3点										
<p>・発達障害者以外に実施する場合</p>	<p>・プロジェクトは、発達障害者の特性を踏まえて開発したのですが、発達障害者以外へも実施できます。その際は、講習①で使用する「発達障害の特性チェック」への記入は省いて実施してください。</p>										

### 3 振返りの際の留意点

<p>・活力感、自分らしさ（意味付け）への着目</p>	<p>・「強み」を観察できたかどうか、発揮できたかどうかだけでなく、<u>活力感、自分らしさ（意味付け）に着目して振り返ります。</u></p> <p>・「強み」を発揮できていても<u>活力感を感じていなかったり、自分らしさ（意味付け）を感じられない場合は、「強み」の発揮を休んでもよいことや、ほかの「強み」に目を向けることなどを助言します。</u></p> <p>例：「集中」という「強み」を発揮しすぎて、夜遅くまで勉強して睡眠不足になっている。</p> <p>⇒「集中」という「強み」を発揮することはいったん休み、夜遅くまで勉強するのはやめてみよう、と声をかける。</p> <p>⇒「集中」ではなく「計画性」という「強み」を使い、夜の時間の使い方計画を立ててみよう、と声をかける。</p>
-----------------------------	--